

「防災トイレフォーラム2023」のご案内

～時間経過に応じたトイレ対策と質の確保の重要性を共有する～

この度、特定非営利活動法人 日本トイレ研究所は、地方公共団体のトイレの“備え”に役立つ情報を提供する事を目的とした「防災トイレフォーラム2023」を9月29日(金)に開催いたします。

災害時のトイレ対策は、迅速にトイレ環境を確保し、誰もが安心して使用できるように配慮する必要があります。しかし、過去の災害では、避難環境の悪化等により命を落とすことが少なくありませんでした。

関連死につながる原因のひとつとして、トイレに行くのが嫌で水分を控えてしまうことにより体調を崩すことがあげられます。被災者の命を守るためのトイレ対策が喫緊の課題となっています。

本フォーラムでは、東日本大震災等で避難所運営にあたった施設管理者や災害対応にあたった行政担当者に当時の状況や課題、改善点についてお話しいただき、時間経過に応じたトイレ対応のあり方や避難所における良好な生活およびトイレ環境の確保に向けた取り組みについて学びます。なお、災害用トイレメーカーや東松島市による展示もありますので、ぜひご参加くださいますようお願いいたします。

フォーラムの概要

名 称	防災トイレフォーラム 2023 ～時間経過に応じたトイレ対策と質の確保の重要性を共有する～
日 時	2023年9月29日(金) 開 場 10:00 (展示は受付不要でご自由にご覧いただけます) フォーラム受付 12:00～13:00 フォーラム 13:00～17:00 展 示 見 学 10:00～13:00 (自由見学) 13:50～14:30、15:10～15:50 (フォーラムプログラム)
会 場	東松島市コミュニティセンター (会場アクセス参照)
参加費	無 料
定 員	200名程度
主 催	特定非営利活動法人日本トイレ研究所／災害用トイレ普及・推進チーム
共 催	東松島市
後 援	宮城県 (予 定)
申込方法	同封の申込用紙をメールもしくはFAXで下記へお送りください メール： laboseminar@toilet.or.jp / FAX：03-6809-1412

フォーラムプログラム

10:00 【開 場】

展示見学時間

13:00 【開会挨拶】

渥美 巖 氏（宮城県 東松島市 市長）

13:10 【教訓1】東日本大震災、大塩市民センターでの避難所におけるトイレ対応

木村 喜宥 氏（元 大塩市民センター 所長）

佐々木 美香子 氏（大塩市民センター 事務長）

千葉 美智子 氏（大塩市民センター 事務主任）

大塩市民センターは、直接津波の被害を受けなかったこともあり、一時は700人程度の被災者が避難しました。当時センター長として避難所運営を務めた経験をもとに、避難所の運営で特に大変であったというトイレ対応についてお話しいただきます。

13:50 【展示見学時間①】（休憩を含む）

2つのグループに分かれて屋内展示と屋外展示を別々に見学します。

14:30 【教訓2】時間経過に応じた避難所運営（トイレ・キッチン・ベッド）の課題

今石 佳太 氏（兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 客員研究員、

前 熊本県益城町 危機管理監、元 兵庫県芦屋市 市長室 室長）

先遣隊や後方支援として様々な形で被災地支援に取り組んできた経験を踏まえ、現場における時間経過に応じた避難所運営（トイレ・キッチン・ベッド）の課題、そして組織の防災力向上に必要な実践的な取り組みについてお話しいただきます。

15:10 【展示見学時間②】（休憩を含む）

【展示見学時間①】とは、逆の展示スペースを見学します。

15:50 【政 策】これからの防災～災害時の避難所におけるトイレ対策を中心に～

西村 文彦 氏（内閣府政策統括官（防災担当）付 参事官（避難生活担当）付 企画官）

内閣府（防災担当）では「避難所におけるトイレの確保・管理ガイドライン」において、関係部局間での連携の重要性を示し、トイレ確保・管理計画の作成を求めています。避難所におけるトイレ対策の考え方についてお話しいただきます。

16:10 【実 践】マンホールトイレの使用実績とその後の改善

小田島 毅 氏（宮城県東松島市 建設部 下水道課 下水道危機対策専門員）

東日本大震災でマンホールトイレを使用しました。その時の課題を踏まえ、小学校の運動会やお祭りなどで実際に市民に使っていただき、改善に取り組んでいます。マンホールトイレのスムーズな運用と快適なトイレ環境に必要な備えについてお話しいただきます。

16:30 【全体質疑およびまとめ】

17:00 【閉 会】

※プログラムは変更となる場合がございます

【併催】災害用トイレの使用展示会

避難所では時間経過に応じて複数タイプの災害用トイレを組み合わせて対応することで、切れ目なくトイレを確保することが必要です。実際に避難所で使用することを想定して、災害用トイレ（携帯トイレ、簡易トイレ、仮設トイレ、マンホールトイレ、自己処理トイレなど）を展示します。技術的な相談にも対応します。

また、東松島市のマンホールトイレやダンボールベッドなどの備品等も展示します。東松島市のマンホールトイレは、運動会やお祭りなどで使用することで課題を抽出し、改善を重ねています。マンホールトイレと携帯トイレは実際に使用できますので、ぜひお試しください。

会場では、以下の種類の災害用トイレを展示します。（展示物は変更になる可能性があります。）

○主に屋内に備えるトイレ

携帯トイレ

災害で断水しても
建物内のトイレを利用できる

- 蓋の中に吸殻シートや濾紙を入れて、水も尿も貯めることができる
- 使用後は可燃ごみとして収集されるまで保管する
※ 可燃物の確認が必要
- 尿蓋にポリ袋を装着しておくことで、携帯トイレが濡れるのを防ぐ

簡易トイレ

災害時、トイレが足りないときはこれで安心

- 設置場所を選ばず、通常のトイレまで行けない人や感染症対策など、専用のトイレが必要な場合にも活用できる
- 簡易トイレの上に置くことで、尿蓋が濡れず安心

災害対応型トイレ

平時から水が不要な小便器

- 平時から設置しておけば、断水時も問題なく使用することができる
- 仮設トイレやマンホールトイレにも設置することができる

衛生関連製品

トイレとセットで、衛生用品や防臭・防虫剤を備えよう

- 断水で手洗い場が十分にできない場合、大粒のウェットティッシュや保冷剤があると便利である
- 仮設トイレやマンホールトイレに入れることで、悪臭や虫の発生を抑えることができる

○主に屋外に備えるトイレ

仮設トイレ（ボックス型）

ワンランク上の仮設トイレを「快適トイレ」という

- 「快適トイレ」の標準仕様
 - ・ 快適トイレに求める機能
 - ・ 防臭・防虫・防臭
 - ・ 水漏れ防止機能
 - ・ 高い遮断力機能
 - ・ 設置に際さない取付機能
 - ・ 移動容易
 - ・ 多人数が同時に利用可能な仕様
- 2. 付属品として備えるもの
 - ・ 設置に際している場合に発生する臭気や悪臭を除去
 - ・ 設置からトイレの入り口が遮断されないこと
 - ・ マシナリーボルト等
 - ・ 断水対策
 - ・ 断水対策として専用の衛生用品
 - ・ 断水対策として専用の衛生用品
 - ・ 断水対策として専用の衛生用品
 - ・ 断水対策として専用の衛生用品

仮設トイレ（組立型）

災害時、すぐに組み立てられる仮設トイレ

- 大人2人で容易に組み立てることができる
- 組み立て式なので、管轄は従来タイプで構築することができる

マンホールトイレ

災害時、専用のマンホールに、トイレを組み立てれば完成

- どちらのタイプも入口に段差がないので、車いす利用者なども使用できる
- 大小便を排泄し溜めることで、一定期間は使うことができる
- 下水道につながっているので、くみ取りの必要がない

自己処理型トイレ

停電・断水時に使える循環式の水洗トイレ

- トイレと処理装置が一体になっていて、汚水を処理して循環再利用することができる
- 太陽光発電と蓄電池により、停電時においても使用できるタイプがある

災害用トイレ普及・推進チーム 参画企業一覧（出展予定）

- (株)井戸屋
- (株)カワハラ技研
- (株)カンキョウ
- (株)キガ
- (株)クボタケミックス
- クリロン化成(株)
- (株)ケンユウ
- スターライト工業(株)
- 積水化学工業(株)
- (株)セットアップ横浜
- (株)総合サービス
- 長島鋳物(株)
- ニシム電子工業(株)
- (株)ニード
- 日本セイフティー(株)
- ネポン(株)
- (株)ビー・エス・ケイ
- 日之出水道機器(株)
- 北勢工業(株)
- 無臭元工業(株)

※50 音順



会場アクセス

東松島市コミュニティセンター

〒981-0503 宮城県東松島市矢本字大溜 1-1

<http://higamatsu-comcen.jp/comcen-hp/index.html>

- 電車の場合
 - ・ J R 仙石線 矢本駅より徒歩約 15 分
- 自動車の場合
 - ・ 三陸自動車道 矢本 I C より車で約 5 分



事務局 特定非営利活動法人 日本トイレ研究所（担当：松本、島村）

〒105-0004 東京都港区新橋 5 丁目 5-1 IMC ビル新橋 9F

TEL 03-6809-1308 / FAX 03-6809-1412 / www.toilet.or.jp/toilet-guide

特定非営利活動法人日本トイレ研究所

日本トイレ研究所は関係機関と連携し、ネットワークを組みながらトイレの改善をとおして、誰にとっても安全・安心できる地域社会づくりと健全な地域環境づくりに貢献することを目的としており、公共トイレに関する調査・研究、トイレ教育、トイレ環境の改善に向けた普及啓発を柱にしながら、トイレ環境はどうあるべきかを総合的に研究し、トイレからの社会改善に向けて活動しています。

また、平常時から災害時トイレ衛生対策を推進し、災害にも安心して使用できるトイレ環境をつくる災害時トイレ衛生管理講習会の開催など、人材の育成にも尽力しております。

Labo.
日本トイレ研究所